

新基地建設反対名護共同センター ニュース

24万人余の死と共に「命どっ宝」を今こそ世界へ

玉城デニー知事を支え 沖縄を二度と戦場にさせない

10月21日(土)午後3時から糸満市の平和祈念公園で、「遺骨の眠る土砂を埋め立てに使わせない10・21県民集会」(主催・オール沖縄会議)が開かれ約650人が結集しました。

オール沖縄の稲嶺進共同代表は、「この礎には24万余の名前が刻まれている。『命どっ宝』の心はこの土地に刻み込まれている。その土砂を埋め立てに使うなど許されない、言語道断である。今日、入口で頂いた平田さんの文書に、私たちにできることは二度と戦争を起こさないことです。平和の沖縄を守りぬくことは、今の私たちにしかできないことではないでしょうか」と紹介して挨拶。

ガマフヤーの具志堅隆松さんは、「政府は、南部の土砂を埋め立てに使うか決めていない。それは業者が決めること……だと、無責任な態度を紹介しました。」

徳田博人琉大教授は、「国の代執行訴訟において、沖縄県の答弁書も、国の訴訟資料も読んだが、総評として、県は話し合いによる解決を、国は強権的な姿勢で臨むと感じた」と報告。

玉城デニー知事から、「ウクライナや中東情勢など多数の市民が犠牲に。沖縄戦の記憶と重なり心が痛む……。遺骨収集はまだ終わっておらず、一柱でも多く返せるよう取り組む」とメッセージが代読されました。



国による代執行を許さない
デニー知事とともに
地方自治を守る
11・5県民大集会
時 11月5日11時~12時
所 北谷ドーム

39年目の金曜昼休みデモ



毎週金曜日、県庁の周りを歩く「金曜昼休みデモ」は、なんと(!)、39年も続いています。盆や正月でも休まず、台風でも路線バスが全面運休にならない限り、よっぽどでない限り休みません。このデモは1984年2月、アメリカのアジア・太平洋地域へ

の核巡航ミサイル、トマホークの配備に反対して、県原水協、統一連、平和委員会の提唱で始まりました。最近ではシュプレヒコールで「核兵器禁止条約を批准せよ」のほか、「安保3文書反対」「沖縄をミサイル基地にするな」「辺野古新基地反対」「辺野古に南部の土砂を使うな」等を訴えています。

県庁と市役所の間道のフクギの木の下から、12時半出発で約30分間、民商の車を先頭に歩きます。始めの頃から運転や警察の許可申請などの世話をし、長年の継続に力を尽くしてきたのは島袋朝一さんです。10月20日は2050回目、参加者12名でした。これでも最近では多い方で、北海道や、千葉の方や、キューバの方もみえました。毎年2月など、チラ

シを『赤旗』に入れて知らせをすると、参加者が40~50人にふえます。嬉野京子さんによれば、1984年頃、全国で核トマホーク反対の運動が起こったが、続いているのは沖縄だけだそうです。反戦平和運動が切実で、復帰や反基地運動の中心を担った沖縄だからだと思います。先頭には長い間、古堅実吉元衆院議員や、阿波根弁護士、(故)宮里政秋元県議がいらっしゃいました。今は、赤嶺政賢衆院議員、渡久地修県議、上原安夫前市議なども時々参加しながら、今までの本当に沢山の方々の意志を継いで歩いています。皆様もどうぞいらして下さい。一緒に歩きましょう。(芝憲子)



エンズの向こう側から15分ごとに私たちの写真を撮りに来ていた黒服の人たち。その写真をいつたい何に使うのか? 聞いただしてみなかった。

翌朝は辺野古漁港脇の座り込みテントへ。熊本からの社員旅行の一行が説明を聞いていました。若い社員さんたちの熱心な姿に励まされ、明るい気持ちになりました。この日は土曜日でキャンプシュワブ前の抗議行動はお休み。誰もいないテントで、「勝手にコンサート」と銘打ち、4人だけでゲートに向かって歌い踊りました。観客はいないのですが、米軍基地の中、フ

憲法フォーックジャンボリー in 東京の
実行委員の方々が辺野古・高江応援
私たちは「憲法フォーックジャンボリー in 東京」という平和のイベントで知り合った4人です。10月13日、16日、5年ぶりに辺野古、高江に行ってきました。
イベントのシンボル「戦争の放棄」の「のぼり旗」を持って、安和、辺野古、高江を回り、安和棧橋へは名護共同センターの名義さんが案内してくれました。
現地ではゲート前に女性一人だけで、ダンク輸送を遅らせるための牛歩を続けていました。私たちも「安里屋ユンタ」を歌いながら一緒に牛歩をしました。ゆっくり歩こうとするのですが、間近に迫るダンクの迫力に押されついつい歩みが早くなつてしまいます。ここで抗議を続けなくてはいけない現実を前に、この国の在り方への疑問が深まります。